

令和4年度

認知症支援のための

# 事例検討会



<テーマ>  
認知症がなかなか受容  
できない家族の支援について



- [日時]** 令和4年7月9日(土) 14:00~15:30  
【開始30分前より、入室可能です。】
- [方法]** オンライン研修 (Zoom)
- [講師]** 沖田 裕子氏  
(NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表)
- [対象]** 阿倍野区内の在宅医療・介護関係者および  
関心のある専門職

パソコン、タブレット、スマートフォンを用意し、インターネット環境が整っている方。また、パソコンの場合は、カメラとマイクが必要となります。タブレット・スマートフォンで参加する場合は、アプリを使って参加となります。あらかじめインストールをお願いします。

主催：阿倍野区認知症強化型地域包括支援センター

共催：阿倍野区在宅医療・介護連携推進会議

(阿倍野区北部・阿倍野区中部・阿倍野区)地域包括支援センター  
昭和ランチ、あべのあいあいねっと、阿倍野区保健福祉センター  
阿倍野区社会福祉協議会、あべのオレンジチーム

お問い合わせ

TEL

6628-1400 (阿倍野区認知症強化型  
地域包括支援センター中川・大石)

(申込詳細は裏面をご覧ください)

令和4年7月9日実施

## 「認知症支援のための事例検討会」のアンケート結果について

令和4年7月9日(金) 14時～ オンラインにて認知症支援のための事例検討会を実施しました。「認知症の本人への対応が難しい家族の支援について」をテーマに検討を行い、当日は42名の参加を頂きました。グループワークでは違う職種の支援者と様々な意見交換をして頂きました。

参加者のアンケートでは、支援者が感じている「家族の困りごと」「負担」は、以前に家族を対象に調査した時の家族が感じていることとほぼ一致していました。普段からしっかり家族と寄り添った支援をされていると感じました。家族の困りごととして一番多かったのは「先の見通しが見つからない」との回答でしたが、先の見通しについては、家族や本人に見通しを示す支援者の力量が問われているのかもしれない。

「ケアで困る場面や、今後取り上げてほしかったテーマについて」では「支援拒否」が困る場面として多く上がっています。病識なし、一人暮らしなど現場では苦勞されているように思います。

また、取り上げてほしい内容は「意思決定支援」があげられました。個別事例でどのように意思決定支援を具体的に行っていけばいいか知りたいという要望とあります。

スーパーバイザー 沖田裕子先生からコメント 



今年度もオンライン研修でしたが、オンライン研修の良さにも慣れてきたかなあと思います。自分のモチベーションを鼓舞するためにも皆さんと意見交換することが大切ですね。是非、学びの機会に参加して、専門職の人たちも孤立を避けてくださいね。

今回は様々な職種の方の意見が聴けて良かったです。またの機会に一緒に学ばせてください。

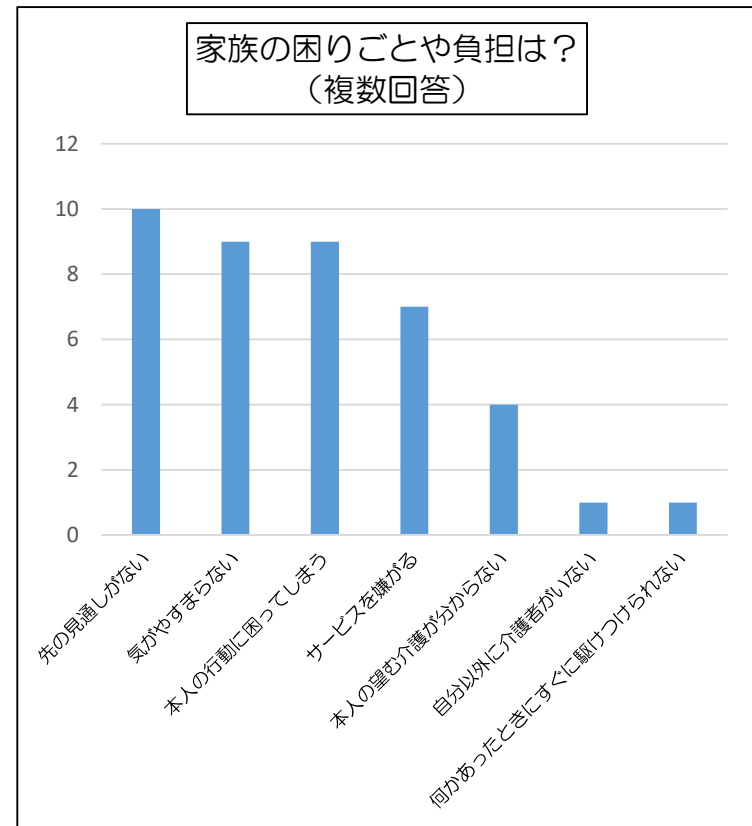
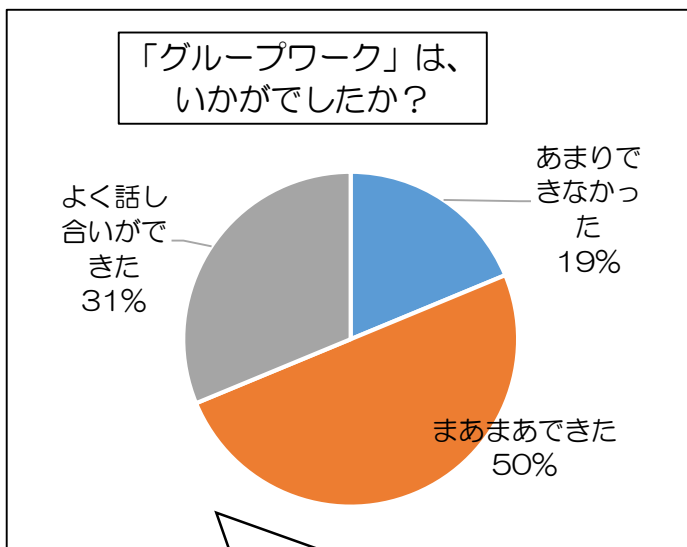
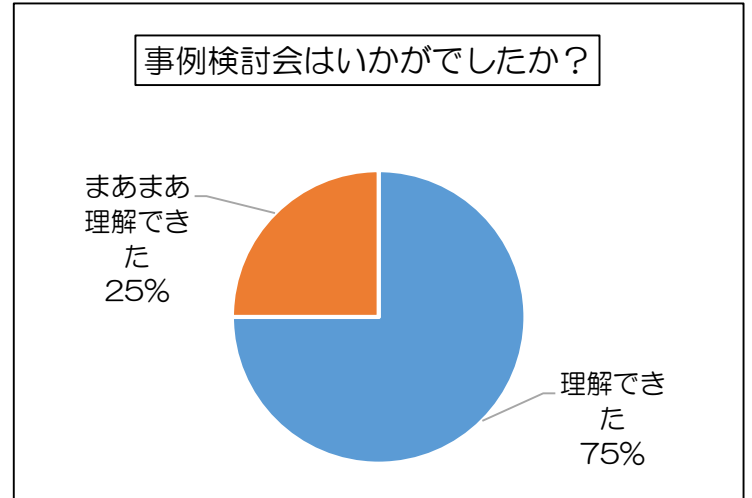
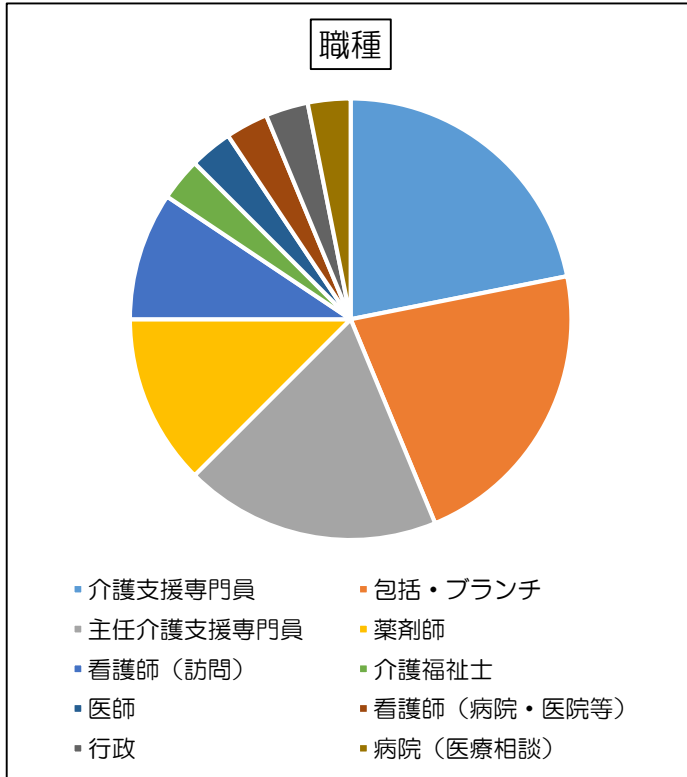
貴重な時間を割いて参加して頂きありがとうございました。明日からのエネルギーにしていただけなら幸いです。利用者、家族もコロナ禍で病院、施設で面会できない現実を受け止めながら、工夫を凝らして支援している発言もあり、たくましいと思いました。しんどい時こそ交わっているいろんな人の意見を聞いて自分をエンパワメントしていただけならと切に思います。

ご協力ありがとうございました。

(主催：阿倍野区認知症強化型支援センター：一大石)

# 認知症支援のための事例検討会（令和4年7月9日開催）：アンケート集計

参加者42名：回答32名（回答率76%）  
 「認知症の本人への対応が難しい家族の支援について」



## ※グループワークの検討事項

1. 認知症の人に上手く対応できない家族に出会ったことがありますか？家族は何故上手く対応できないのだと思いますか。それぞれの経験を分かち合いましょう。
2. 家族は本人が入院生活できるか、認知症が悪化しないか心配している…皆さんならどう対応しますか？家族の心配を軽減するには。

5. 認知症のケアで困る場面や事例検討会で取り上げてほしいテーマ等があればご記入ください。

本人の望む介護に家族がどう寄り添えるかについて

徘徊に対応する福祉用具の種類。保険外での一般的な手段。

サービスを嫌がる 施設入所を嫌がる 関係づくり

阿倍野区の地域ケア会議について（既にされていたら申し訳ありません）  
介護支援専門員の研修でやたら出てきますので、把握しておかないといけないと思いました。

協力的でない家族や遠方に住む家族との連携がスムーズにいかない事

自宅近くのスーパーまでは独歩  
インスリンやバルン管理など医療行為があり、内服管理や受診付き添い、保清が必要など  
認知症の自覚がなく自分できると思っているが、支援は必要な人が自宅退院を望まれ訪問  
看護、訪問介護を導入しながらやっていく場合、どのように介入していくことになるのか  
知りたいです。

認知症家族、サービス事業所ともに難渋していたケースが、違うアプローチをして上手く  
いった成功事例を数多く取り上げて参考にさせていただきたいです。

精神科病院への入院の進め方や問題交のある利用者の緊急ショート先の見つけ方、サービ  
ス拒否の強い利用者の対応の仕方

老老介護になりつつあり、共に認知症状が出ている場合、他からの意見を聞くことはとて  
も難しくなります。新しい変化に対応する事は、認知症でなくても難しくなります。新た  
な一歩を踏み出す際の支援は、説明だけでなく、みなさんどのようにされているのかなと  
思います。

研修の時間が決まっているため致し方ないのだが、グループワークの時間をもう少しとっ  
ていただければと感じた。

この事例検討会には初めて参加させていただいたが、出された事例の事例検討ではなく、  
みんなが事例を出しやすくするための事例というのが、とても話し合いをしやすかった。  
独居の認知症患者の入院時支援（意思決定支援や保証人欄への署名など）についてなどを  
取り上げていただきたいです。

財産のない認知高齢者の施設入所を含めたサービスの導入方法

本人に認知症の自覚が無い場合のアプローチの仕方。

家族それぞれの意向が異なり、波風を立てたくない思いがあり支援が進みづらい

認知症介護をされている家族へ必要な対応  
認知症患者本人に対して、望ましくない対応をされていることが見受けられます。そのよ  
うなご家族に対し、支援者がどのように対応されているのか、またどのように対応してい  
けば良いのかをご検討いただければと思います。

認知症患者さんへの関わり方で性格や症状に応じた工夫等があれば知りたい。

家族が、いなく、認知が疑われるにも関わらず、1人暮らしの方への介入は、どうすれば、  
良いか？